

1 全般状況

男子生徒 63 名を含む 242 名の新入生を迎えはじめた共学 1 年目である。男子生徒に対応するため大小いろいろな面で見直しが図られた。昨年に引き続き、トイレの改修や部室の増築などの工事が行われた。

2 事業概要

(1) 定員、生徒数、教職員数等

ア 入学定員等

普通課程 修業年限 3 年

入学定員 175 名 (1、2、3 年)

イ 生徒数 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

学年	募集定員	在籍生徒数	備考
1 年	175	240	平成 29 年度入学生
2 年	175	147	平成 28 年度入学生
3 年	175	121	平成 27 年度入学生
合計	525	508	

ウ 教職員数 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

校長 1 教頭 1 教諭 25 養護教諭 1 常勤講師 3 事務職員 4

(計 35 名)

非常勤講師 19 非常勤カウンセラー 1 非常勤職員 4 司書 1

(計 25 名)

総計 60 名

(2) 募集活動

《平成 30 年度入試結果》

受験者数 665 名 (単願 168 名 併願 497 名) 合格 660 名

併願の戻り 26 名 (戻り率 5%) 入学者 191 名

- ・受験者内訳 男子 210 人 女子 455 人
- ・入学者内訳 男子 57 人 女子 134 人
- ・夏のオープンスクール 2 回、秋のオープンスクール 2 回、入試説明会 2 回のほか、延べ 38 校の中学校へ出向き、出張授業をおこなった。
- ・秋のオープンスクールでは、制服のほか各部活のユニフォームを紹介する「聖星コレクション」を行い PR した。

(3) 学校評価

関係者の協力を得て、様々な貴重な意見を頂いた。学校関係者評価は保護者アンケートとともにホームページ上に公開する。

(4) 学習指導 進路指導

- ア 30年度の進学状況は、国公立大学への進学者3名、有名私大への進学者7名など目標に掲げた数に及ばなかった。121名という少人数学年であること、特に特進クラスが8名という超少人数であったことに加え、総合コースから国公立大学や有名私大へ挑戦する生徒がいなかったことが要因に挙げられる。そのような中で国立難関大学であるお茶の水女子大学の合格者がでたのは、大学入試方式の多様化に対応した個別指導の成果と言える。
- イ 就職に関しては17名の希望者全員が卒業までに内定を取ることができた。県内外の就職セミナーに参加し、男子生徒の求人を得られるよう働きかけている。
- ウ 看護医療栄養系プログラムは従来総合コース理系の生徒を対象にしていたが、今年度2年生から総合コース文系の生徒も参加できるようにした。4月当初8名の文系生徒が参加していたが、2月末には2名まで減ってしまった。理系クラスではプログラムに参加している生徒も多く、励まし合いながら課題に取り組むことができるが、文系ではごく少数のためより意志が強くないと継続できない傾向がある。
- エ PG（プレップガイド）は特別時間割を組まず、時間割に則って行った。実技授業もすぐに開始されるため、生徒の緊張をほぐす効果があった。
- オ 2学年ではSLP（Self-Learning Project 平日90分の学習時間を確保させ、学習定着を目指すプロジェクト）を導入。
- カ 英語検定、数学検定をはじめ、理科検定、世界遺産検定など各種の検定し多くの生徒が取り組んだ。英語検定では奨励賞を、数学検定ではグランプリ金賞を受賞した。
- キ 夏期補講は前年度のシステムを踏襲し、前期・中期・後期と分け、それぞれ1週間ずつの講座を設けることで、3年生が複数の、自分に必要な講座を受講できるようにした。
- ク エンパワーメントプログラムを8月21日～25日の5日間で行った。特進の1年生のほか教養コースから3名の参加者があった。生徒は日を追うにしたがって積極的に取り組むようになり最終日には堂々としたスピーチを披露した。
- ケ 各教科の研究授業では、ICTの活用やアクティブラーニングなど、新しい試みを取り入れられた。

(5) 教育課程

共学化に伴い、教育課程を改訂したため、2種類の教育課程が混在することとなり、物理基礎の授業数が一時的に増えるなど、アンバランスな状態になっているが、年次進行で解消される見込みである。

(6) 奉仕活動

末広会の施設訪問の他、募金活動や手と足で書いた美術品の購入などには全校生徒の多くが参加している。

(7) 国際交流

- ア AFS 留学生の受け入れはなかったが、JET プログラムを利用し、シモン・ロシェールさんを ALT として受け入れた。
- イ 今年度留学生はカナダ 5 名、イギリス 1 名、オーアラリア 4 名。
カナダの 1 年、イギリスの半年に加え、オーストラリアへの 3 か月（2 学年 3 学期）の留学が新しく開始された。
- ウ 夏期短期留学はアメリカ研修 5 名、オーストラリア研修 9 名で実施された。

(8) 部活動

多くの部活動が活発に活動し、好成績を上げている。

- ・陸上部は東海大会、演劇部は関東大会へそれぞれ出場した。
- ・吹奏楽部は 3 年連続、全日本吹奏楽コンクールに出場し、銅賞を受賞。全日本ポップス&ジャズバンドグランプリ大会グランプリおよび文部科学大臣賞。東海アンサンブルコンテストではクラリネット八重奏と金管八重奏がともに金賞を受賞した。
- ・剣道部は全国高等学校選抜剣道大会に出場。ベスト 16 に入り、2 年生の鈴木結香が優秀選手に選出された。
- ・情報処理部を中心に情報処理技能検定、日本語ワープロ検定、プレゼンテーション作成検定等を多くの生徒が受検し、のべ 39 名が合格した。
- ・男子の部活動も活発に活動しており、男子バスケットボール部は 1 年生チームながら県大会出場を果たした。

(9) 生徒指導

- ア 1 年生で小テストの不正行為が発生した。追試での不正行為が多く、監督の体制を強化し不正防止に努めた。
- イ 盗難防止のため、生徒一人ひとりに貴重品ボックスを与え、財布やスマートフォンはそこへ入れ施錠するようにした。

(10) 学校行事

- ア 創立記念式典には卒業生で NHK の放送記者をしている古山彰子さんを迎え、お話を伺った。留学試験にも、NHK の採用にも一度は落ちたもののあきらめず再挑戦した話を生徒たちは熱心に聞いていた。
- イ ベリタスプラザは天候に恵まれ、1187 人の来校者があった。1 年生が校舎内の装飾を担当し、窓ガラスや階段に工夫を凝らした装飾を施し、好評であった。「創造」のテーマにふさわしく、新しい試みもみられた。日本舞踊部はステージ発表ではなく、小道具や衣装の展示を行い日本舞踊部の歴史を振り返る展示も興味深かった。グローバルイシュー研究部のフェアトレードには卒業生の静岡文芸大学の学生も参加し、新しい試みであった。
- ウ 修学旅行は、天候に恵まれ滞りなく行われた。

- エ 10月23日に予定されていた2年生のチャペルアワーは台風21号の影響で中止。
10月上旬の1年、3年のチャペルアワーは予定通り行われた。
- オ 授業参観の機会を利用し、1年生の生徒、保護者合同で修学旅行の説明会を行った。
次年度から、国際教養コースの生徒は沖縄とシンガポールから行き先を選べるため、旅程、研修内容、費用など保護者にもじかに聞いてもらい、生徒との共通理解を持ってもらおうという企画であった。
- カ マラソン大会は男子10Km、女子は5Kmを参加者全員が規定時間内に完走した。
- キ 体育祭は男子生徒が加わり、例年以上の盛り上がりを見せた。男子生徒参加の競技について生徒会が話し合いよく準備していた。
- ク 卒業式は昨年に続き、午後開催とした。中学校の校長会と重なっており校長先生方の出席はかなわなかったが、6校の中学校から代理の先生方が出席してくださった。

(11) その他

- ア 体罰等の報告はない。今後も体罰のない指導を徹底する。
- イ 学校周囲での不審者の報告は1件もなかった。
- ウ 運動部に参加する男子生徒が予想以上に多かったため、夏休みに工事を行い、部室を増設した。